

消防団防災学習



宝くじ桜



移動採血車



宝くじドリームジャンボ絵本

宝くじは、
みんなの暮らしに
役立っています。

宝くじは、少子高齢化対策、災害対策、
公園整備、教育及び社会福祉施設の
建設改修などに使われています。



一輪車



青色回転灯装備車



検診車



パブリックアート



滑り台広場



宝くじ桜

パブリックアート

消防団防災学習

検診車

一輪車

移動採血車

青色回転灯装備車

滑り台広場

宝くじドリームジャンボ絵本



日常生活における 防犯生活ガイド



発行：公益財団法人 全国防犯協会連合会

一般財団法人 日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や
公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。

一般財団法人
日本宝くじ協会
<https://jla-takarakuji.or.jp/>



この冊子は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。



あなたも被害者になる可能性があります

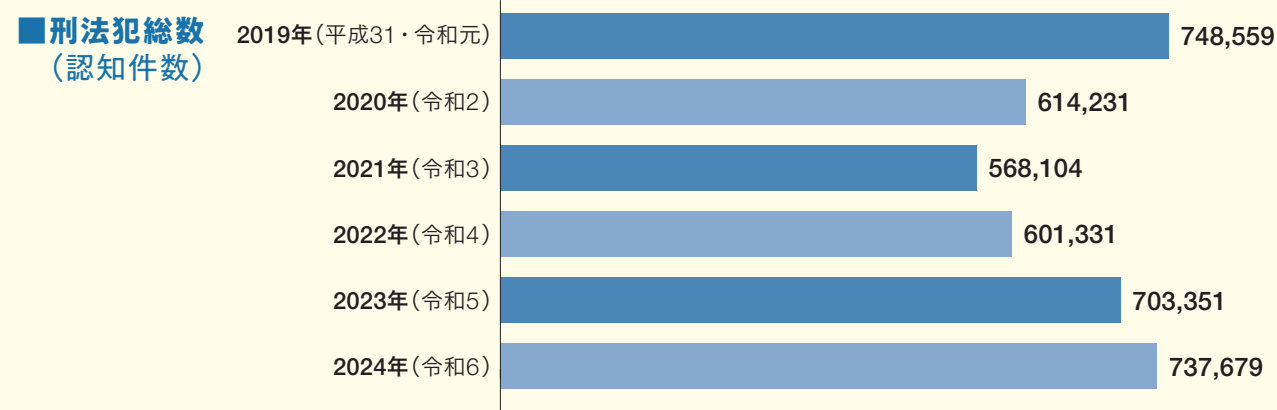
犯罪は身近な場所で起こっています！

多くの人は、犯罪は自分とは関係のない場所で起こるもの、ニュースで知るものと思っているかもしれません。しかし、ひったくりや子どもに対する声かけ、自転車や自動車の窃盗、住宅侵入、インターネットを経由した詐欺など、あなたの身近で起こっています。

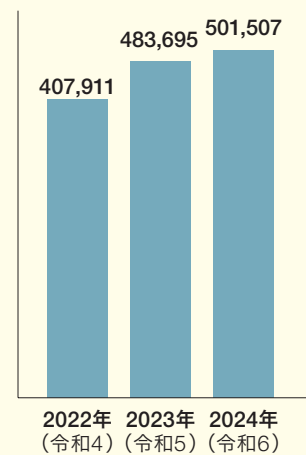
近年、犯罪は増加傾向に転じています

刑法犯の認知件数※は2002（平成14）年に戦後最多の約285万件を記録して以来、2021（令和3）年の約57万件まで減少してきました。しかし、2022（令和4）年から増加に転じ、2024（令和6）年には約74万件と3年連続で増加しています。刑法犯のうち、もっとも多いのは窃盗犯で、窃盗犯、凶悪犯、知能犯、風俗犯は2022（令和4）年以降、年々増加傾向にあります。

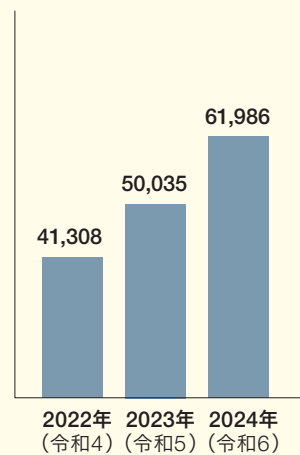
※殺人・強盗などの凶悪犯、暴行・傷害などの粗暴犯、窃盗犯、詐欺・横領などの知能犯、賭博・わいせつなどの風俗犯を含む刑法および一部の特別法に規定する犯罪で、被害の届出や告発などにより警察が発生を認知した件数



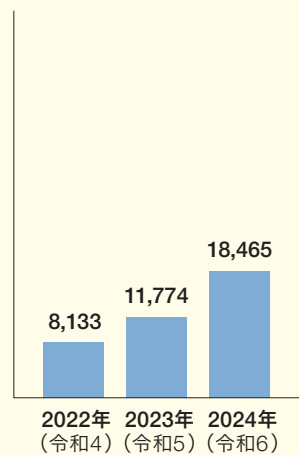
■窃盗犯（認知件数）
＝泥棒、ひったくりなど



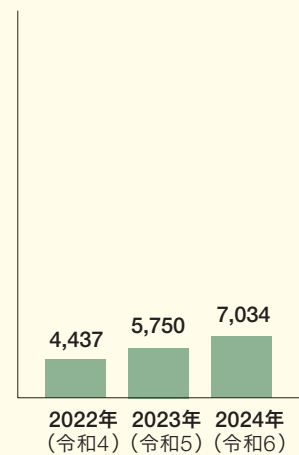
■知能犯（認知件数）
＝詐欺、横領、偽造、汚職など



■風俗犯（認知件数）
＝賭博、公然わいせつ、不同意わいせつなど



■凶悪犯（認知件数）
＝殺人、強盗、放火、不同意性交など



窃盗は私たちの身近なところで起こっています

窃盗には空き巣、居空き、忍込みなどの侵入窃盗と、車上ねらい、ひったくり、置引きなどの非侵入窃盗があります。

侵入窃盗

一般住宅への侵入が37%

【空き巣】住人が不在のときに侵入

【居空き】住人が昼寝や食事中に侵入

【忍込み】夜間、住人が就寝したところに侵入



非侵入窃盗

わずかなスキが狙われる

【車上ねらい】自動車などの積荷や車内の金品を窃取する。自転車のカゴから荷物を盗むものも含む

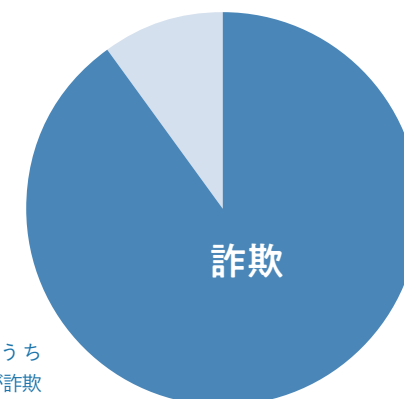
【ひったくり】歩行者や自転車に乗っている人の荷物を奪い取る

【置引き】飲食店や公園、空港、電車やトイレの中など、不特定多数の人々が行き交う場所に置いてある所持品をスキを見て窃取する



知能犯は、2023年から約1万件ずつ増加しており、そのほとんどが詐欺です

特殊詐欺は、2003（平成15）年くらいから「オレオレ詐欺」を中心に、預貯金詐欺や還付金詐欺などさまざまな手口が増えています。近年は、1件あたりの被害額が高額になり、インターネットバンキングや電子マネー（プリペイドカード）が悪用されるケースが増えています。



知能犯のうち
90%以上が詐欺

闇バイトは犯罪です

SNSなどで、短時間で高収入が得られるなどの誘い文句で人を募る闇バイト。その実態は犯罪実行者の募集です。犯行グループはさまざまな手段で誘いかけ、一度応募すると、入手した個人情報に基に抜けられない仕組みを作り出しています。もし興味をもって連絡を取ってしまったあとも、相手の言いなりにならず、警察に通報、もしくは公的機関に相談しましょう。



日常にひそむ危険を知ろう！

子どもが遭いやすい犯罪

毎日通学などで通る道やいつも遊んでいる公園などでも、被害に遭う可能性があります。犯罪者は、保護者などの大人の目が届かないちょっとしたタイミングを見計らって、声をかけたり、身体を触ったりします。「いつもの場所だから安心」と決めつけず、子どもの行動範囲に、犯罪に遭いそうな場所やシチュエーションがないか、ふだんから目を配り、どんな危険があるか子どもとも話し合っておきましょう。

シチュエーション

1

駐輪場での声かけ

駐輪場では、しばしば自転車の盗難やいたずら事件が起こります。また、子どもに対する声かけ事案も発生しやすい場所です。

【対応策】

子ども

声をかけられ、変だなと思ったらきっぱりと断ること。自転車を押さえられたりしたら、大きな声を出したり、防犯ブザーで周囲に知らせましょう。

保護者

子どもがよく利用する駐輪場を定期的にチェックして、防犯上の問題がないか確認。問題があれば駐輪場の変更も検討を。

シチュエーション

2

オンラインゲーム経由で匿名の相手とつながる

オンラインゲームには、ボイスチャットやメッセージ交換機能もあり、匿名の相手とも簡単にやり取りできます。ゲームで協力する仲間意識やゲーム上級者に対する憧れの思いが悪用される事案が増えています。

【対応策】

子ども

相手の本当の姿は見えていないことを意識しましょう。自分に関する情報を書き込んだり、写真を送ってほしいなどの要望に答えてはいけません。

保護者

インターネットの危険性を子どもに説明し、インターネット利用の家庭内ルールを作りましょう。なぜ、そのルールが必要なのか、ていねいな説明が必要です。またフィルタリングのサービスも利用しましょう。

スマホ（スマートフォン）のフィルタリング

スマホで安全にインターネットを利用できるようにするためには、携帯電話回線の接続、無線LAN回線接続、アプリの接続の3つに対するフィルタリングが必要です。詳しくは携帯電話販売店にご確認ください。



シチュエーション

4

共用玄関について入る

集合住宅の共用玄関、階段の踊り場、エレベーターの中などで、子どもの身体を触ったりする事案が発生しています。

【対応策】

子ども

共用玄関に入る前に周りを見渡して、じっと見ている人やついてくる人がいないか、確認しましょう。変だなと思ったら、すぐにその場所を離れましょう。それでもついて来たら、迷わず防犯ブザーを鳴らしましょう。

保護者

共用玄関の周囲に人が隠れることができる場所がないか、外から見えにくいかなどを確認し、必要な対策を立てましょう。防犯カメラを設置したり、カメラの設置を知らせる掲示なども有効です。

シチュエーション

5

人目の少ない路上での声かけ

学校からの帰宅時は、犯罪者の声かけが発生しやすい時間帯です。クラブ活動などで早く通学する場合も注意が必要です。

【対応策】

子ども

見知らぬ人からの声かけには、「嫌です」「行きません」「うちの人の聞いてからにします」ときっぱりと断る。

保護者

下校時間に子どもと一緒に通学路を歩き、できるだけ安全なルートを選びましょう。遅い時間の帰宅は、迎えに行くなどの配慮を。

怪しい人に声をかけられたら

自分でなんとかしようと思わず、大きな声を出したり、近くのお店や歩いている人に助けを求めてください。防犯ブザーを持っているなら迷わずに使いましょう。



こんな声かけに注意！

家族や学校の関係者だとおわせる声かけで安心させようとしています。

- ・お母さんの友達だよ。幼なじみなんだ。
- ・お父さんと同じ会社だよ。二人でよくあなたの話をしているんだ。
- ・PTAの仕事をしているんだけど、ちょっと話を聞いてもいいかな。

日常にひそむ危険を知ろう！

女性が遭いやすい犯罪

通勤や買い物などで歩き慣れている道だから安心とは限りません。犯罪者は何気ないふりを装って街を観察し、ちょっとしたスキを狙って声をかけたり、身体に触れたりします。また日常的に使っているSNSにも注意が必要。見知らぬ相手とのやり取りも回数を重ねると親しみが生まれ、そこにスキができます。自分の暮らしの中にどんな危険がひそんでいるか、考えてみましょう。

シチュエーション
1

自宅までつけられる

最寄り駅などから後をつけられる事案が多く発生しています。駐車場が住まいと離れている場合も注意が必要です。

【対応策】

近づく人影や足音などに注意を払いましょう。自宅に近づいたら、さり気なく周囲を見回して確認を。集合住宅の中に入っても自分の家の中に入るまでは「屋外」と意識して後からついてくる人や近づいてくる人に気を配りましょう。

歩きスマホは控えましょう

歩きながらスマホの画面を見たり、操作をしたりすると、周囲の状況に対する注意力が低下し、ひたたりや痴漢などの犯罪被害に遭いやすくなります。また、自転車や自動車への接触事故や転倒事故の危険性もあります。



シチュエーション
2

後をつけてきたり急に抱きつかれる

注意力が散漫になっていたり、暗がりにいるわずかな時間に、身体に触られたり抱きつかれたりする危険があります。

【対応策】

疲れていたり、急いでいると、注意力が低くなりがちです。よく歩く道でも周囲への注意を怠らずに。駐車や駐輪は灯りが届く場所を選び、車の場合は自分以外の人影を感じたら、素早く車に乗ってロックしましょう。自転車の場合は、大きな声を出したり明るいほうへ移動します。

女性の防犯対策 小さなことでも習慣づけましょう。

帰宅時 夜間は遠回りでも明るい道を利用し、定期的に帰宅ルートの変更を。

就寝前 玄関、窓、ベランダなどの施錠を確認しましょう。

シチュエーション
3

SNSで勧誘

SNSで知り合った相手と連絡を取るようになると、初めは用心していても、次第に個人的なことを書き込んだり、親しみを持つようになったりします。犯罪者はそこを狙い、投資や副業ビジネスに勧誘したり、資金援助を求めたりします。

【対応策】

SNSで知り合った人からお金の話がでたら、詐欺を疑いましょう。

シチュエーション
4

ひたたくりに遭う

人通りの少ない道を歩いていた、自転車に乗っていたりすると、後ろから近づいてきたバイクに乗った犯罪者にバッグや自転車のカゴの中の荷物をひたたくられる危険があります。

【対応策】

多少遠回りになっても、明るくて人通りの多い道を選び、バッグは車道とは反対側に持ちましょう。金融機関のATMなどを利用した直後は、財布をバッグにしまってから移動してください。自転車のカゴにはひたたくり防止カバーをかけましょう。

シチュエーション
5

公園での声かけ、身体への接触

早朝や夕方以降などの公園は人目が少なく、隠れる場所も多いので犯罪の危険性が高まります。

【対応策】

近道だとしても、人目の少ない時間帯の公園は通らないようにしましょう。

日常にひそむ危険を知ろう！

高齢者が遭いやすい犯罪

高齢者をターゲットにする犯罪は、自宅への侵入や悪質商法など、以前からあったものに加え、スマホを介する詐欺など、形を変えて多様化しています。高齢者自身が注意することも必要ですが、ふだんから家族で話し合ったり、連絡を取ったりすることも犯罪防止につながります。「自分の親は大丈夫」と思っても、日頃からこまめに電話や訪問するなどして、情報を共有しましょう。

シチュエーション
①

架空請求詐欺

「未払いの料金がある」「今日中に支払わないと裁判になる」などと不安をあおり、ATMでの振り込みやプリペイド式の電子マネーなどの購入を求めたりします。

【対応策】

本人

身に覚えのない不審な連絡には対応せず、家族や警察に相談してください。「ATM」や「電子マネー」という言葉が出たら、詐欺です。パソコンのサポート詐欺も同様の手口で金銭を要求します。パソコン画面に注意を促す表示が出てあわてずに電源を落として、身近な人に相談してください。

家族

スマホで不安そうに話していたり、急に「コンビニで電子マネーを買わないと」などと出かけようとしたら、すぐに話を聞きましょう。

フィッシングも増加傾向

宅配業者や金融機関などを装って、スマホにメールを送り、偽サイトに誘導して、銀行の口座番号やパスワードなどを聞き出すフィッシングも増加傾向にあります。メールやSMSに記載されているリンクを安易にクリックせず、公式サイトからアクセスしましょう。



シチュエーション
②

自宅に侵入される

戸建ては共同住宅に比べて出入り口や窓が多く、リスクが高い傾向にあります。また低層の集合住宅は窓などに手が届きやすいため、狙われやすいと言われます。

【対応策】

本人・家族

防犯ガラスや補助錠の設置、窓の二重ロックなど、住宅の防犯機能を高めましょう。窓の外には足場になりそうなものを置かないでください。またこまめに庭などの手入れや新聞や郵便物を回収することも防犯上有効です。

シチュエーション
③

点検商法

高齢者宅を狙って屋根や水回りなどの無料点検を提案し、損傷箇所がないにもかかわらず、「このままでは危険」「今なら割引価格」などと契約させようとします。

【対応策】

本人

すぐに契約するのではなく、複数の業者から見積もりを取りましょう。不安な点があれば、「住まいるダイヤル®（国土交通大臣指定の住宅専門の相談窓口）」に相談しましょう。

住まいるダイヤル® ☎03-3556-5147

10:00～17:00（土・日・祝日、年末年始を除く。固定電話からは、全国どこからでも市内通話料で利用可能（一部のサービスを除く）。

家族

高齢者だけが家にいる時間帯などに不審者が訪問していないか、気を配りましょう。不審な契約書があればすぐに確認を。クーリングオフができる可能性もあります。

かたり商法

「消防署のほうから来ました」と、役所から来たかのように装い、消火器やガス警報器などを住まいに備え付けることが義務付けられていると偽って売りつけます。役所を思わせるような訪問があったら、どこに所属するのか確認し、身分証明書の提示を求めましょう。



シチュエーション
④

送り付け商法

注文していないのに一方的に商品を送り付け、代金を請求する手口です。

消費者ホットライン「188」

地方公共団体が設置している身近な消費生活センターや消費生活相談窓口を案内してくれます。

【対応策】

本人・家族

特定商取引法の改正により、売買契約に基づかずに送付された商品は、直ちに処分できます。代金の支払いも不要です。送り付けた事業者の請求には応じないようにしましょう。誤解して金銭を支払ってしまった場合でも、その金銭については返還を請求することができます。対応に困ったら「消費者ホットライン」へ。

一人ひとりが自覚を持って 地域で守る みんなの安全・安心

犯罪は身近な場所で起こる可能性があります。しかし、一人ひとりが犯罪が起きやすい場面を知り、ふだんから防犯意識を持つことで防ぐことができます。地域ぐるみで犯罪の抑止力を高めることも重要です。みんなで街の安全・安心を守りましょう。



きれいな街に

落書きや放置自転車などがなく、きれいな街には犯罪が起こりにくいと言われています。よく手入れをされている＝頻繁に人々が活動しているイメージになり、犯罪の抑止につながります。定期的な清掃に加え、街灯の点検や防犯カメラの設置なども検討しましょう。

防犯ボランティア

街のパトロール、死角になる場所の点検、落書きを消したり、子どもの登下校時に見守り活動を行ったりするのが防犯ボランティアです。活動そのものが犯罪の抑止力になります。活動に参加することで新たに防犯意識を高め、情報交換もできます。できる範囲で参加してみませんか。

ながら見守り

防犯ボランティアへの参加は難しいという方は、「ながら見守り」で協力しましょう。言葉通り何かをしながら見守り活動を行うことで、誰にでもできます。庭掃除をしながらや散歩のついで、通勤や買い物の行き帰りなどに不審者や不審車がないかなどに目配りします。



各種相談窓口

110番は緊急時のためのダイヤルです。
緊急ではない相談は、相談専用ダイヤルへ

警察相談専用ダイヤル#9110

発信地を管轄する警察本部等の総合窓口につながります。

都道府県警察の少年相談窓口

犯罪などの被害に遭い、悩んでいる子ども自身や、お子さんのことで悩みを抱えているご家族のための窓口です。



サイバー事案に関する通報等のオンライン受付窓口（警察庁ウェブサイト）

サイバー事案に関する通報・相談及び情報提供ができます。

消費者ホットライン「^{いやや}188」番

地方公共団体が設置している身近な消費生活センター等を案内する3桁の電話番号です。

110番映像通報システム

スマートフォン等で映像等を送り、事件・事故等の現場の状況を警察に通報することができるシステムです。

110番通報を受けた警察職員は、映像等を取得する必要があると判断すると、通報者の同意を得て、通報者のスマートフォン等にSMSを利用して、専用URLを送信します。通報者は、専用URLにアクセスすることにより、スマートフォン等で撮影した映像等のほか、あらかじめ撮影した映像等を送信することができます。

なお、警察では、スマートフォン等のGPS機能により通報場所の正確な位置を把握することができます。

+1
ポイント

自宅や駐車場での自動車盗難にご注意ください！

「自宅や契約している駐車場に停めてキーを抜いたから大丈夫」ではありません！ 令和6（2024）年の調査では、盗難被害に遭った自動車のおよそ4台に3台がキーなしの状態に被害に遭っています。自動車盗難の発生場所は一般住宅が約42％と最も多く、ついで駐車場の約27％です。リレーアタックによる被害を防止するため、スマートキーは玄関先に置かず、電波を遮断できるケースに入れるなどの対策を。また、盗難被害に遭わないために、車から離れる時はキーを抜いて確実にドアロックをしましょう。併せて、ハンドルロックや警報装置等の活用、防犯カメラやセンサーライトの設置など、複数の対策を講じてください。

